

「半ばあきらめる気持ちで『走ろう』と決意した芦田選手。すると不思議なことに運動を始めて1・2か月



以上、全国で年間50回以上の講演を行うなど、伝える活動にも積極的な芦田選手。講演終了後も児童のたくさん質問に丁寧に答え続けました。



← 6年生を対象に全ての運動の基本である「走ること」を丁寧に指導。→ 治療の影響で成長が止まった右腕は、左腕と約2kgの重量差がありバランスを取ることが難しい。



● 芦田創(あした・はじめ)さん
【トヨタ自動車所属 25歳】
右ひじが脱臼した状態で生まれ、治療の過程でできた腫瘍の除去手術を繰り返すうちに右腕に機能障がいが残る。15歳で陸上競技を始めると腫瘍が完治。以降は本格的に競技に打ち込み、専門の走り幅跳びで自己記録7m 15cmを記録(日本記録)。リオパラリンピックでは400mリレー第一走者として銅メダルを獲得。

目標はパラリンピックの金メダル。銀や銅じゃなく、金だけが欲しい



人生を変えた陸上競技との出会い

右ひじが脱臼した状態で生まれ、その治療過程で右腕にできた悪性腫瘍の除去のため、放射線治療を10歳から続けた芦田選手。体に負担をかけられず、運動とは無縁の生活を送りました。しかし15歳まで続けても完治せず、医師からもう方法が無いと告げられます。

「好きなことに挑戦し、心が明るくなったから治ったのだと思う。障害は残ったけど、走ることに出会えて僕の人生は変わった。自分の可能性を信じて、好きなことは我慢せずにチャレンジすれば、きっといいことが待っています」と自身の経験から挑戦する姿勢の大切さを伝えました。

夢

その一・世界で戦うアスリートが市場小学校を来訪

Dream × Sports

陸上競技

芦田創選手
Ashida Hajimu

Para Long Jumper | リオパラ五輪銅メダリスト

日本人初のパラ走り幅跳び7メートル超えジャンプ。リオパラリンピック4×100mリレーで銅メダル。自身の障害と向き合い人生をかけて頂点に挑む世界的アスリートが伝える夢と目標の力。

「障害に甘えない」生き方をしていきたい



パラ五輪メダリストが市場小で夢の授業

開催を来年に控え、熱を帯びてきた「東京オリンピック・パラリンピック2020」その普及を目指す福岡県の事業の中で、市場小学校が筑豊で2校の実践校の一つに選ばれ、走り幅跳び日本記録保持者・芦田創選手の訪問が9月9日に実現しました。世界的アスリートの訪問を、3年生から6年生の児童243人が大きな拍手で迎えました。

「小5の時の治療の影響で、右腕の成長が止まってしまいました」講演の冒頭、芦田選手は自身の障害のことから話し始めました。「ハンデがあってもこれくらいのジャンプをしていると思うってください」と実際に距離を測り示した自身の持つ日本記録7m 15cm。「あと30から40cm跳べば東京で金メダルに手が届く。そのため人生の全てをかけています」。世界の舞台で戦う選手の重みのある言葉に、会場は感嘆の声に包まれました。



本気で目指す夢の力 児童に伝えた決意

世界の舞台で戦う芦田選手は「夢は簡単に叶うとは思わない方がいい。本気で目標をかなえたいと願い、本気で努力をした先にやっとたどり着けるもの」と厳しい言葉も投げかけました。

リオパラリンピックで手にした銅メダルも「悔しいメダルだった」と振り返ります。「誰よりも厳しく競技や障害と向き合い、同じ境遇の人の中で一番になったという自信が欲しい。自分の人生に納得するために、金メダルだけが欲しいんです」と頂点を目指す強い決意を語りました。

常に高い向上心で自分自身と向き合い、困難に打ち勝ってきた芦田選手。揺るがない夢を追い、努力を重ねるその姿勢は児童の心を強く打ちました。

